

# 見てみよう！歴史地震記録と

# 旬のあいち < 3月 >

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## ◆ えにちじ 恵日寺

所在地：稲沢市西島町

交通：名鉄尾西線「山崎」駅 東約 400m

稲沢市は、木曾川を始め多くの河川が市域を流れていて、主にその河川が運んできた土砂が堆積してできた地盤が広がっており、液状化の被害を受けやすい地域です。明治 24 (1891) 年の濃尾地震の際にも、「地震が始まると地割れが起こり、その裂け目から泥水が噴出し、井戸からも土砂が水とともに噴き上がり、土砂で埋まる井戸や水が一滴もなくなる井戸があらわれた」との記録があり、液状化現象が発生していたことがうかがえます。市内の遺跡の発掘調査では、濃尾地震や昭和 19 (1944) 年の昭和東南海地震の噴砂跡のほか、天正 13 (1586) 年の天正地震など中世にできたと考えられる噴砂跡も確認されています。

稲沢市のホームページには「濃尾地震を学ぶ」のコーナーがあり、稲沢市の 4 名の方の証言が掲載されていますが、いずれの方の証言からも液状化現象が発生していたことが読み取れます。

「我家の前が、地がわれ、水の砂が大分出ました。最初、何事が起きたと思いました。」「一家の井戸の中より、水がむくむくとわきでていました。多数の井戸は泥水でした。地われした所から、水がふきだしているところもありました。」「足元の地面が割れて、土水が吹上がって来た。」「家の外には大きな亀裂が出来、水が吹き出しておりました。その中に母ははまり、ずぶぬれになって来ました。」「(濃尾地震生き証人の記録 (愛知県、昭和 54 年)) より)

液状化の被害は、建物が傾く程度のことが多く、人命を

損なうことはまれですが、傾いた建物で生活を続けることは難しく、また建物に被害がなくてもライフラインが損傷し、復旧に長い期間を要する場合があります。さらに、内陸で津波による浸水の被害を受けることのない場所であっても、河川の堤防が液状化により損傷し、復旧するまでに大雨が降れば、氾濫を起こす可能性があることなどに注意しなければなりません。

西島町の恵日寺には、大きな被害が出た濃尾地震を忘れないように、という願いを込めて建立された震災記念碑が残されています。碑文には「おそろしきなみに残りし人もなし (なみ：地震)」と地震への恐怖が記されており、悲惨な体験を後世に伝えようという意味が込められています。記念碑を建立しようと寄付金を募りながら、実現に至らなかった例もある中、後世への体験の継承の強い思いが表れています。



震災記念碑

また、濃尾地震に関連して、稲沢市には市指定文化財の「濃尾震災美談図」という絵があります。この絵は、濃尾地震の当日、稲沢高等小学校の当直をしていた鶴飼金三郎訓導が、倒壊の直前に二階にあった奉安庫から教育勅語をかかえて階段を下りるところです。松原三五郎が描いたもので、明治 28 年の春に完成しました。京都の内国勧業博覧会に入選した作品です。普段は公開されていませんが、市の指定文化財特別公開展などで時折お目にかかることができます。



濃尾震災美談図 (稲沢市 HP より)



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い (二度と被害を繰り返さないように、など) が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こること実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆ 恵日寺の周辺には…

### ● 善慶寺

所在地：稲沢市法花寺町熊ノ山

交通：名鉄本線「国府宮」駅北西約2km

善慶寺は、明治24(1891)年濃尾地震の際に堂宇が全壊したとされています。周辺の寺社、煙突が倒れ、道路



に地割れが続いていた、などの体験談もあります。



### ● 尾張国府跡

所在地：稲沢市国府宮

交通：名鉄本線「国府宮」駅北東約450m

稲沢市には尾張国の国府所在地と推定される遺跡があり、尾張大国霊神社(国府宮)を中心に約800m四方の範囲で、1977年から1990年にかけて稲沢市教育委員会によって発掘調査が行われています。この発掘調査で砂脈(噴砂跡)が確認されています。この噴砂跡は、明治24(1891)年濃尾地震、天正13(1586)年天正地震等によるものである可能性が指摘されています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

## ★ いなざわ梅まつり

稲沢市は植木や苗木の日本有数の生産地で、市内にある愛知県植木センター内には104種類、200本余りの梅が植栽されており、全国的にも貴重な見本園として、開花時期には多数の見学者が訪れます。

3月初旬には「いなざわ梅まつり」が開催されます(平成27年は3月7日、8日)。写真コンテストや盆梅展、樹木ウォッチングなどのイベントのほか、梅を眺めながら一服できる抹茶コーナーや飲食ブース、特産品販売コーナーも



稲沢市マスコットキャラクター「いなっぴー」

設けられ、早春の1日を楽しむ人々でにぎわいます。

### 3月のあいちの花

平成27年3月のあいちの花はカラーです。サトイモ科のカラーは、個々の花は小



さく中央の太い柄に並んでつき(肉穂花序)、それを包むような形で仏炎苞が発達しています。この仏炎苞や葉が美しいものが多く、観葉植物として栽培されるものもあります。

以前はサトイモ科カラー属に分類されていたので、その名残でカラーと呼ばれています。

### ● ブレイクタイム ●

#### ♪ 善光寺東海別院

善光寺東海別院は信州善光寺の別院で、明治の末に蓮田であった今の境内の地に、一本の茎から二つの蓮の花が咲くという奇瑞を縁として創立されました。全国に数ある善光寺の中でも、代表的なもの(六善光寺)として有名です。本堂は善光寺特有の撞木造りで、間口14間、奥行20間の総檜造りの大伽藍となっており、信州善光寺の本堂の約3分の2の大きさを誇ります。善光寺如来は、現当二世(この世もあの世も)を守る仏さまです。

本尊の御開帳は7年に一度で、今年は六善光寺が同時に御開帳を行います(平成27年4月5日～5月31日)。

【『六善光寺同時御開帳』公式HP：<http://www.gokaicho.net/>】



『善光寺東海別院』

所在地：稲沢市祖父江町祖父江南川原57-2

交通：名鉄尾西線「山崎」駅西約1.2km

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会(仮称)・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年3月)